



大叔父さんの戦争体験記

8月は楽しい夏休みの季節ですが、忘れてはならない、終戦記念日があります。今の平和がどんなにかけがえのないものか、しっかり伝えていきたいですよ。しかしそうは言っても、自分で調べることができない年齢のみなさんに伝えるのは難しいです。なので私は、私の大叔父に戦争の話を書くことができたのでみなさんにご紹介します。

大叔父は昭和7年一毛村（現在前橋市城東町）6人兄弟の長男として生まれました。曾祖父は鍛冶屋を営んでいました。

満州入植

正和15年親戚が満州に行った事や、農機の修繕で鍛冶屋が必要とされたことから、日本政府の要請で満蒙開拓団として満州に入植しました。（満蒙開拓団とは、1931年〜1945年の日本の太平洋戦争敗戦時に至るまで、いわゆる旧「満州国」・内モンゴル地区に、国策として送り込まれた入植者約27万人のこと）曾祖父は吉林省盤石馬の村長と配給所の所長をして

いました。

開拓地では土地を安く売買し、地元民をお手伝いとして雇い、農地開拓をしていました。（このころ日本列島では太平洋戦争が激化し、劣勢でした）満州に駐屯していた日本陸軍部隊、関東軍に開拓団の青年、壮年男子はことごとく徴兵され、開拓団部落の大部分は無力な老人、婦女子、子供たちになりました。

昭和20年日本敗戦と逃走

太平洋戦争が激化し、ついに広島・長崎に原爆が落とされ日本はポツダム宣言の降伏文書に調印しました。日本政府が送り込んだ満蒙開拓団は敗戦した事実さえも知らされぬまま、ソ連軍の侵入、満州国軍・蒙古軍の反乱により地獄の逃走が始まりました。

曾祖父家族は馱馬車に乗り、残された開拓団で満州脱出を試みましたが、脱走兵や匪賊（略奪・暴行する集団）に取り囲まれ、曾祖父、大叔父、親戚は撃たれてしまいました。大叔父は足を引かず近隣の川に逃げ、自殺を試みようとしましたが、馱馬車の中に取り残された幼い妹と弟がまだ生きているかもしれないと思い、死ぬに死ねませんでした。大量の出血で意識を失いましたが、【とーちゃん……】と自分の叫ぶ声で我に返りました。夢に出てきた曾祖父に【あー、父ちゃんが死ん

だ】と実感しました。奇跡的に妹、弟と再会しましたが、曾祖父、親戚は殺されてしまい、最後まで遺体と再会できませんでした。

過酷な越冬生活

敗戦国の日本に対して、ソ連軍や満州国軍は略奪と暴行の限りをつくしました。毎晩のように叫び泣く女性の声にもできない大叔父は悔しさと虚しさを覚えました。貧しさと苦しさに耐えられなくなり自殺していく人たちが後を絶ちませんでした。銃口を自分の口に突き付ける人、ダイナマイトを囲う人、自らの手で家族を殺す人、飢えや感染症で命が絶たれていくことは日常のことで、明日生きている保証もありません。それでも妹、弟を守り続けました。

日本帰還

万に一つもない奇跡で生き残った大叔父たちは博多まで帰ってきました。博多にあった日本地図には原爆や空襲でめちゃくちゃになった日本の悲惨な姿がありました。一毛村にたどり着き、姉や高祖父母に再会できたとき、わつと今までのつらい記憶がよみがえり言



葉もなく泣き続けました。そのとき自分の父や母、親戚が殺されたことはあまりにも辛く、しばらく打ち明ける事が出来ませんでした。

過去を振り返る

大叔父が60年以上も経過した過去を今でも鮮明に覚えているのは、子供の頃に親を失い、あまりにも過酷な毎日を過ごしてきたからです。戦争は誰も幸せにしない。必ず誰かが死んで誰かが泣いている。親を目の前で殺されるようなことは今後も決してあつてはならないと涙ながらに話してくれました。

あとがき

今回社内新聞の8月号を書くことになり、大叔父に話を聞きました。大叔父の子供の頃の話をごんごんに詳しく聞くことは初めてで、あまりにも辛く過酷なものに私も涙を流してしまいました。曾祖父が日本に帰れなかったことも、多くの日本人が命を絶たなければいけなかったことに、大叔父の言葉にもあつた、戦争は誰も幸せにしない。決して繰り返してはならないと改めて思いました。



知っておきたい、レジャー先のけがや病気をいこう

編集後記

8月に入り、うだるような暑さが続いています。我が家では今年から暑さ対策にすだれを取り付けてみました。

すだれやよしずはエアコンにすべてを頼らない方法としてここ数年で再び注目されているそうです。窓の内側に吊るしても涼しくなりますが、軒先に吊るした方が効果はより大きいようです。あの調査では窓の内側に吊るすときよりも、二倍以上の熱エネルギーを減らしてくれるそうです。エアコンと併用するにしても、窓の外側で日射を遮蔽することでその効果を高め、電気代の節約にもつなげることができます。まだまだ暑い日が続きますが、さまざまなアイデアを駆使してこの夏を涼しく乗り越えていきたいですね。(外丸)

暑い夏が到来し、山、海、川などレジャーに出かける機会が増えると思います。今回は夏のレジャー先で注意したいケガや、対処法についてご紹介します。

●虫刺され

虫に刺されそうな所に行くときは長そでのシャツや長ズボンで肌を覆うことで予防することができます。



アブの対処法

刺されると激しい痛みや腫れ、強い痒み等の症状がでます。刺された場合は患部をきれいな水で洗い清潔にした後、患部から血を絞りだして毒を出します。止血後は冷水などで冷やします。

ハチの対処法

夏場はハチの活動が盛んになります。特に8月～10月はスズメバチによる被害が非常に多い時期です。ハチに刺されると※アナフィラキシーショックを起こす危険もあり注意が必要です。応急処置では、針をピンセットなどで抜き、毒を絞り出すようにして流水で洗い流します。吐き気、冷や汗、頭痛などの全身症状が出ることもありますので早めに医療機関を受診しましょう。

※アナフィラキシーショックとは…

「アナフィラキシー」は、発症後極めて短い時間のうちに全身性にアレルギー症状が出る反応のことです。

更に血圧の低下や意識障害などを引き起こし、場合によっては生命を脅かす危険な状態になることを「アナフィラキシーショック」といいます。そのような事態に遭遇したら、すぐに救急車を呼びましょう。

●虫が耳に入ったら

キャンプなどで耳に虫が入ってしまったら、暗い場所で懐中電灯の明かりをあてると虫が出てくる場合があります。それでも取れない場合は耳鼻科で診てもらいましょう。



●海でクラゲに刺されてしまったら

患部は絶対にこすらず、海水でよく洗い流して下さい。傷口にクラゲの毒針が残っている場合は、ピンセットでそーっと取り除きます。その後、保冷剤をくるんだタオルなどで患部をよく冷やし、早めに医療機関を受診しましょう。

クラゲは海の生き物なので、真水で洗うと刺胞（しほう…袋状で毒針を内蔵したもの）に刺激を与え毒針を出すことがあります。肌にくっついた際に取り除くには注意が必要です。



●ガラス片や石によるケガ

川や海などでは落ちているガラス片や鋭い石で手足を切ってしまうことがあります。その場合は傷口を清潔な水で洗ってから、ガーゼなどで10分～20分程度圧迫し止血してから絆創膏などで保護しましょう。また、錆びた釘などの金属片でケガをした場合は、傷口から感染してしまうこともあるので医療機関を受診しましょう。



●やけどをした場合

花火やバーベキューを行う際には、やけどに対する注意が必要です。また、日差しで熱くなった滑り台など、公園の遊具でやけどをすることもあります。やけどをしてしまったら、まずは流水で痛みが和らぐまでしっかりと冷やし、

症状の程度によっては医療機関を受診しましょう。

●熱中症にも注意

熱中症は夏の暑い陽射しの下だけでなく、高温多湿の室内でも起こります。レジャー中では帽子をかぶったり、こまめに塩分や水分を補給するなどの予防が必要です。熱中症かな、と思ったときはすぐに応急処置を行い、医療機関を受診しましょう。



熱中症の応急処置について

- ①涼しい場所へ移動する。
- ②衣服をゆるめて体を冷やす。
- ③塩分や水分を補給する。



家族で出掛ける場合は、小さな子どもからは目を離さず、保護者が注意しておくことも、ケガ等のトラブル防止に繋がります。一人ひとりが、外出先でトラブルに遭わない行動を心がけ、楽しい夏の思い出を作りましょう。

参考：沖田耳鼻咽喉科HP・環境暑熱中症予防HP

ゆたか倶楽部HP (坂部)

